

本時のねらい

・干潟観察を通して生き物の様子や育つ場所などに関心をもって働きかけた経験や学びを言葉で表現することで、気づきを深める。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・Google Keep を活用することで、書いたり消したりすることが容易になり、学びを書き留めることへの意欲向上につなげられる。
 ・表現の自由度が高く、文字の色や大きさ、イラストでの表現などを工夫して、生き物に親しみをもちながら自分なりに学びをまとめることができる。
 ・時間が経った後でも学習ログとして活用できる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タッチペン ・Google Keep ・大型テレビ ・Chromecast

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○干潟観察での学びをふりかえり、めあてを設定する。 「うみの生きものをつかまえてかんさつしたことをまとめよう」 ○干潟観察で採取した海の生き物について Google Keep にまとめる際のポイントを確認する。 ・！（気づき）と？（疑問）についてかこう ・お絵かき OK（色・かたち・大きさ） ・きれいにかこう	
展開 (25分)	○個人作業で、Google Keep にまとめる。 ○教室内を自由に歩き回り、友だちが何をどんなふうにまとめているか見ることで、自分のまとめをより充実させるためのヒントを得る。 ○個人作業で、Google Keep に書いたことをよりよくする。	・Google Keep は、デジタルのメモ帳なので、タイピングができない低学年の児童がすらすらと考えを書きこめる。 ・タッチペンを使うことで、書いたり消したりすることが容易になる。 ・ピンチイン・ピンチアウトで拡大・縮小をすることで、大きく書いた文字を小さく表示し、一度に多くの情報を示すことができる。 ・文字の大きさ、色、イラストでの表現などを工夫して、まとめることができる。
まとめ (15分)	○まとめたことを交流し、互いに気づきを深め合う。	・Chromecast を使って発表者自身が自分のまとめたものをテレビに投影することで、聞く児童がわかりやすくなる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1 Google Keep に書く際のポイントを確認している場面

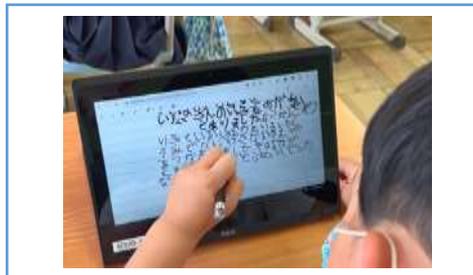


写真 2 個人作業で、Google Keep にまとめている場面



写真 3 まとめたことを交流している場面

児童生徒の反応や変容

・ローマ字を学習していない学年であったため、タッチペンを使って手書き入力ができる Google Keep を活用することで、全ての児童が学習に参加できた。フィールドワークでお世話になった方への手紙を書くなどの事後学習で、記録したものを活かしている子どもの姿があった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・フィールドワークのねらいを明確にすることがとても重要である。専門家や関係機関とも協力関係を構築することで、普段ではできない学びの場を得ることができる。そうした土壌をより効果的に生かすために、学校外での ICT 活用を試みた。事前に学校内で児童たちと練習をしておくことで円滑に学習ができる。また、そうしたフィールドワークでの活動が本時に生きている。
 ・Google Keep は、デジタルノートとして使える。マスに文字を書きにくい子どもにとっても、書きやすい。